



出会いに感謝 「自主・創造」

文責 辻 大吾

本校「人権の日」の取組から・・・

毎月10日を「人権の日」として、当日もしくはその前後日の朝の会の時間に、校内放送を通して教職員が人権に係ることを中心に、自身のエピソードや思いを語る時間を設定しています。今回は、その中からピックアップして以下に掲載したいと思います。

【令和7年7月10日朝の放送】

先週の金曜日、帰り際にある生徒が「先生、また月曜日必ず会おうね!」と元気に声をかけてくれました。その言葉を聞いた瞬間、私はとても嬉しい気持ちになりました。そして同時に、私たちの周りにあふれている“当たり前”について改めて考えるきっかけにもなりました。

皆さんは、金曜日に授業を終えて、土日を過ごし、月曜日に学校へ来ることを、何の疑いもなく“当たり前”だと思っているかもしれません。実際、私もあの出来事があるまではそう思っていました。

今日は、私が“当たり前ではない”と強く実感した出来事についてお話ししたいと思います。

皆さんは2019年ごろ、コロナウイルスが蔓延した頃のことを覚えていますか?ちょうど皆さんが小学2年生から4年生のころ、私は高校2年生でした。当時、2年生の3学期は分散登校が続き、クラス全員が揃う日はほとんどありませんでした。授業は短縮され、学校へ行く頻度も減り、日常がどんどん変化していきました。

高校3年生に進級してからは、学校生活や進路への不安が強くなる中、特に私が心配していたのは、当時所属していた部活動の最後の大会が実施されるかどうかでした。全国大会をめざして努力してきた部活動の集大成である夏の大会。しかし結果として、その大会はコロナウイルスの蔓延防止のため、中止となってしまいました。競技する機会さえ得られないまま部活動引退を迎えたあの悔しさ、悲しさ、そしてつらさは、今でもはっきりと覚えています。そして同時に、仲間と一緒に学校へ通い、授業を受け、部活動に励むことができていた“当たり前”が、どれほどありがたいものだったのかを強く実感しました。

私たちが日々“当たり前”だと感じて過ごしている「今」という時間そのものが、実はかけがえのない大切な時間です。毎日、“当たり前”の生活に感謝するのは簡単なことではありません。けれど、今日のこの放送をきっかけに、皆さんがふとした瞬間に“当たり前”に感じていることへ意識を向け、感謝の気持ちを抱いたり、言葉にして誰かに伝えたりできる人になってほしいと思います。



【令和8年2月12日朝の放送】

私の特技は手話です。今日は私が手話をするようになったきっかけの話をしたいと思います。

皆さんの周りには、補聴器をつけている人はいますか?見たことがある人もいます。補聴器は耳につけて音をキャッチする機械で、見た目はワイヤレスイヤホンにも少し似ています。私が中学1年生のとき、同級生の中に難聴を患った友だちがいました。難聴とは「耳が聞こえづらくなる」障がいの一つです。友だちは低い音が特に聞こえづらく、その低音を補うために補聴器をつけていま

した。しかも、生まれつきではなく、中学生の途中から補聴器が必要になったそうです。突然の変化に戸惑うこともあったようで、周囲の人からは「耳に機械つけてる」「目立つね」など、からかいともとれる言葉を言われたこともあったと聞きました。あるとき友だちは、こう私に話してくれました。

「目が見えにくいからメガネをかける。耳が聞こえづらいから補聴器をつける。それって同じだよな？メガネは当たり前なのに、補聴器だと色々言われるのはなんで？『私自身』は何も変わっていないのに。」

この言葉を私は今でも一字一句覚えています。本当にその通りだと強く思ったからです。障がいがあると生活の中で不便や制限が生まれることはあります。でも、だからといって「その人自身が変わる」わけではありません。私は、障がいを“欠けているもの”ではなく、一人一人がもつ“個性”として捉えることが大切だと思っています。

皆さん、少し周りを見渡してみてください。まったく同じ人なんて、どこにもいませんよね。私とその友だちも、耳の聞こえ方だけでなく、好きなアニメや性格も違いました。でも、同じドラマにはまって語り合うこともありました。話してみると、似ているところも違うところもたくさんある。それこそが“人とかがわる”ということなのだと思います。

その友だちとの出会いがきっかけで、私は手話を学び始めました。手話を通して気づいたのは、コミュニケーションにはたくさんの形があるということです。声で話すこともあれば、手話で伝えること

もあります。表情、しぐさ、文字で書くこと、ゆっくり話すこと——どれも立派なコミュニケーションです。友だちは聞こえにくいための会話に遅れることもありましたが、人柄が変わったわけではありません。だからこそ、相手に合わせた伝え方を一緒に考えることが大切だと感じました。障がい者「理解」として学ぶというより、人と関わるうえで大切なのは、目の前の人と向き合い、その人のことを大切にしようとする姿勢ではないでしょうか。ぜひ、自分の周りの人との関わり方について、今日をきっかけに改めて考えてみてほしいと思います。



老上中学校ホームページ 学校生活における生徒の皆さんの活躍や様子、学校の取組、その日の給食(写真付き)等を毎日アップしていきます。是非ともご覧いただき、たくさんの「👍 いいね」を押していただけただけならありがたいです。
[草津市立老上中学校 | トップページ \(scblo.jp\) \(←クリック\)](http://scblo.jp)



草津市教育委員会だより「コンパス」
草津市教育委員会の教育施策や事業に関する情報をお伝えすることで、より多くの方に草津市の教育への理解を深めていただくために発行しています。
[広報紙\(コンパス\) | 草津市\(←クリック\)](#)

滋賀県教育委員会情報誌「教育しが」
滋賀県教育委員会の教育施策や事業、学校の話が掲載されています。また、各記事に関連するウェブページを紹介していますので、合わせてご覧ください。[保護者向け情報誌「教育しが」 | 滋賀県教育委員会\(←クリック\)](#)

草津市からのお知らせ「草津市就学援助費給付制度について」

草津市では、小・中学校に在学するお子さんがおられるご家庭で、経済的な理由により就学に必要な経費の負担にお困りの保護者の方に、学用品費の一部や学校給食費等を給付する就学援助費給付制度を実施しています。

受給を希望される場合は、申請書に必要事項を記入し、学校まで提出してください。なお、受給要件に該当しない場合は認定できませんのでご承知ください。

申請書や制度の説明につきましては、学校または草津市役所学校教育課（6階）でお渡ししますので、お問い合わせください。